

茅野市ハケ岳通信

総合博物館



ロッキー山脈ブルーレイク

市制40周年・開館10周年 姉妹都市ロングモント市特別展

“Longmont USA” 開催

8月1日(土)～9月20日(日)

ロングモント市は、アメリカ合衆国のはば真中に位置するコロラド州にあります。日系の企業が数多くあるロングモント市は、平成2年に茅野市と姉妹都市提携をした都市で、地形・産業・人口規模が当市とよく似た街です。

毎年夏には、茅野市の中学生がロングモント市へ、ロングモント市の学生が茅野市へやってきてホームステイを行なっています。こうした交流のほかに、姉妹都市の両市民が互いの文化や生活に理解を深められるよう、相互交流展を企画しました。平成10年度には茅野市の総合博物館で、11年度にはロングモント市の博物館で開催するこの特別展は、茅野市制40周年と開館10周年を記念して、8月1日から始まります。ここには、ほんの一部しか紹介することができませんが、ぜひ博物館の会場で、ロングモント市の姿をご覧いただきたいと思います。

〈ロングモント市の自然〉ロッキー山脈のロングスピ

ークを仰ぐロングモント市は、この山の名前からつけた街です。ハケ岳の裾野に広がる茅野市と非常によく似た風景が多いのですが、大変乾燥した土地で、年間の降水量は茅野市の約3～4分の1ほどしかありません。バッファローや、ブレイリードッグ、ジリスといった日本には生息していない生き物もたくさんみることができます。

〈ロングモント市の歴史〉インディアンの文化が栄え、コロンブスの新大陸発見以降、開拓とゴールドラッシュの時代を経て、127年前シカゴ出身の人が多く入植し、現在に至っています。

〈ロングモント市の産業〉ハイテク機器が主な産業で、畜産業、食品加工業も盛んです。

〈ロングモント市民の生活〉少なくとも車2台が入る車庫と、寝室・風呂が2つ、ダイニングルームと居間が1～2部屋ある家に住んでいます。市民の多くは日曜日の朝、教会礼拝に行きます。

茅野市施行40周年記念展

—中川一政とゆかりの郷土作家展— 堀内唯生・野村千春・志村一男

'98 8月2日(日)~8月16日(日)



「向日葵」 P25号 1984(S59) 真鶴町立中川一政美術館

茅野市美術館では、市制施行40周年記念展として、「中川一政とゆかりの郷土作家展」=堀内唯生・野村千春・志村一男=を企画いたしました。

平日は午前10時~午後6時まで、日曜日は午前9時~午後5時まで観覧できますので、この機会にぜひ美術館へおこしください。なお、月曜日は休館となります。

—華やかな色調・奔放な筆触—

中川一政 (1893-1991) は、21歳の時に描いた「酒倉（摂津深江）」が美術会に入選し岸田劉生に認められ、1915年（大正4年）には岸田劉生、木村荘八らと草堂社の結成に参加。1922年（大正11年）には春陽会の創立に石井鶴三、椿貞雄、山崎省三、萬鉄五郎らとともに客員として招かれています。

画風はフォーヴィスム（野獣主義派）的傾向を経て、次第に東洋的なものへと展開していきます。油彩画のほか、岩絵具、水墨を思いのまま自由自在に使いこなす、独特でさっぱりとしていて俗気がない絵画世界にも定評があります。

油彩による日本の絵画を創出し、1975年（昭和50年）82歳で文化勲章を授与されています。

—(2)—

今回、中川画伯がアトリエを構えておられた神奈川県の真鶴町立中川一政美術館のご協力により「薔薇」「駒ヶ岳」の代表作をはじめ、信州ゆかりのスケッチ「川岸村」等を展示いたします。

それに合わせて、若い頃、中川画伯の作品に接し、突き上げる感動に動かされて画伯の門を叩いて教えを乞うた諏訪地方出身の3名の作家（堀内唯生・野村千春・志村一男）を顕彰いたします。

堀内唯生 (1900-1981) は茅野市玉川出身の洋画家で、1925年（大正14年）上京して中川一政に師事。翌年の4月春陽会展に初入選し、この年より1931年（昭和6年）まで中川一政宅に同居しています。

野村千春 (1908-) は岡谷市出身。1929年（昭和4年）中川一政に師事し、春陽会研究所に学んでいます。女性が絵を描くこと自体が困難な時代にあって、1953年（昭和28年）春陽会会員に推挙されています。

志村一男 (1908-1981) は諏訪市四賀出身。1930年（昭和5年）協会展をはじめ独立美術展に入選。1936年（昭和11年）28歳のおり中川一政に師事し、春陽会研究所夜間部で学んでいます。

地元においては1968年（昭和43年）「春陽会南信支部」の結成に尽力しています。

※「春陽会」…日本的な発想や東洋的な洋画を目指す人々によるものであり、東洋的な情緒への古風な傾斜をみせ、文人画的な情緒性を特色とした会。



「駒ヶ岳」 F80号 1975(S50) 真鶴町立中川一政美術館

八ヶ岳総合博物館内に尖石考古館展示室を開設

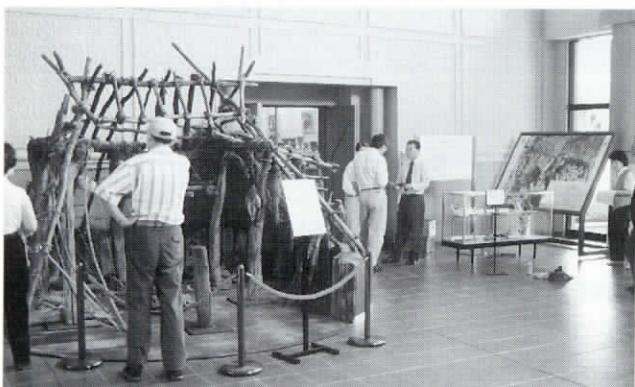
新尖石考古館の新築工事にあたり、開館するまでの間、ハケ岳総合博物館の第二展示室を借りて、尖石考古館の収蔵資料を展示することになりました。

展示室の開設にあたっては、常設展示室のほとんどの資料を移設し、できるだけ今までと同じ展示を行うように心がけました。

展示はハケ岳総合博物館の通常の入館料でご覧頂けます。

なお、従来考古館で行っていた縄文土器製作教室や、尖石縄文文化大学講座などの事業・業務は、尖石遺跡に隣接する青少年自然の森で行っています。電話番号(0266) 76-2270、FAX番号(0266) 76-2700は今まで通りです。

与助尾根遺跡の復元家屋なども今までの場所で見学できますので、ぜひお立ちよりください。 ↗



尖石考古館展示室入口

新尖石考古館の概要

新尖石考古館は茅野市で所蔵する多くの資料を展示したり、縄文時代研究のセンターとして、市民や研究者が気軽に考古学に親しめる場として機能していくよう建設が進められています。

また、尖石遺跡周辺は史跡公園として整備が行われ、隣接する青少年自然の森と一体となった体験学習の場として機能する施設となります。

さらに新尖石考古館は、博物館と埋蔵文化財調査センターの機能を併せ持ります。

新尖石考古館は平成12年7月開館を目標に建設が進められています。

新しい尖石考古館にご期待ください。



展示室内

また、最終日の尖石考古館お別れ式典は市制40周年記念事業の一つとして行われ、前半の尖石考古館をしのぶ会では小平恭前尖石考古館長が尖石考古館の果たした役割について話された後、小平栄一先生による詩吟、伊藤悦弥先生を中心とするオカリナ同好会のオカリナ演奏がありました。

後半の記念講演会は尖石縄文文化大学講座として昨年再開したもので、第5回となる今年は水野正好奈良大学学長にお願いしました。講演会は昨年度からの統一テーマである『縄文人の時代と世界』にそって「与助尾根遺跡から縄文時代を発掘する」と題して行われました。

水野先生は奈良国立文化財研究所当時、宮坂英式氏が研究し出版した発掘調査報告書『尖石』から与助尾根遺跡を取り上げ、論文「縄文時代集落復元への基礎的操作」を発表され、縄文時代の集落研究に一石を投じるなど茅野市とは深い関係にある方です。今回の講演会でもその思い出から現在行われている試掘調査の成果までを長時間楽しくお話しされました。

尖石考古館お別れ記念式典

尖石考古館展示室のハケ岳総合博物館への移転に伴い、ゴールデン・ウィークの4月29日から5月17日まで考古館の無料公開を行いました。期間中の延べ入館者数は3,703名を数えました。 ↗



考古館お別れ記念式典

第5回 尖石縄文文化大学講座

市制施行40周年記念

講演する水野正好先生

一 文 化 財 課

平成10年度の注目の発掘調査から

今年度も県営圃場整備事業や道路改良工事等に伴う発掘調査が、市内の各所において行われています。この内で最も注目すべき鬼場城跡の概要についてご紹介します。

おにば 鬼場城跡の発掘調査

県の道路改良事業により、米沢、北山、湖東、豊平方面の玄関口にある鬼場城跡の一部が削られることになり、平成9年度から茅野市教育委員会が発掘調査を行っています。鬼場城は実戦に使用された記録がなく、城郭についても発掘調査されたことがなかったことから不明な点が多く、いつ、だれが築城したかについては全くわかっていません。

遺構は9年度調査区内で段郭を見つけていますが、本年度は段郭のほかに土橋（どばし）や、城の最も重要な出入口の虎口（こぐち）、深さ2m以上ある豊堀等の施設を確認して調査が進んでいます。遺物は中世の内耳土器の破片が出土しています。

一 守 矢 史 料 館

甲 州 武 田 家 と 諏 訪

当館では8月4日から9月27日まで「甲州武田家五代」展を開催する予定です。守矢文書には数多くの武田氏に関する古文書があります。もっとも古い古文書は年未詳8月28日付の武田信昌書状です。

信昌（1447～1505）は、父信守の死去に伴って9才で家督を継ぎました。信昌が家督を継いだ頃は守護代の跡部氏が権力を握っており、甲斐国内の武田一族と対立していました。寛正6年（1465）に信昌は諏訪氏の援助もあって、跡部氏を現在の春日居町で討ち取りました。このような経過から信昌と神長守矢氏との関係が出来、守矢氏が信昌のために祈祷を行い御玉会と守符を送ったことがわかります。

信虎（1494～1574）から守矢家に送られた古文書は伝えられていませんが、信虎と諏訪との関係を伝える記録は残っています。享禄元年（1528）に信虎と諏訪方頼満・頼隆父子と合戦を行い、諏訪氏が武田勢を破りました。このことは『神使御頭之日記』に記されています。その後、天文4年（1535）に和睦し、天



文8年には諏訪頼満の孫の頼重と信虎の娘が結婚し、武田家と諏訪家は姻戚関係になりました。

天文11年に諏訪頼重が武田信玄（晴信）に滅ぼされ、諏訪を支配するようになります。信玄から送られた古文書が多くなります。諏訪は信玄の信濃進出の前線基地となり、諏訪神社に対して祈祷を依頼することが多くなります。また、守矢家は信玄から神長職や所領を安堵され、諏訪神社も信玄から神事祭礼の執行を保証されるなど、信玄に対する依存度は高くなっています。

諏訪頼重の娘を母とする武田勝頼が信玄の死去に伴い武田家の家督を継ぎました。勝頼の署名のある古文書が1通あります。この文書は勝頼が櫛躑ケ崎館（山梨県甲府市）から新府城（同郡崎市）に移ったときに守矢氏が守符と御玉会を送ったことに対する礼状です。

これらの古文書の展示をとおして、諏訪地方がいかに山梨県との関係が深かったかを見て、今後の両地域のつながりを考えられたらと思います。

茅野市の博物館・文化財課だより 八ヶ岳通信 No.17 発行年月日 平成10年7月31日

編集・発行	茅野市八ヶ岳総合博物館	〒391-0213	茅野市豊平6983番地	T E L. (0266) 73-0300
茅野市美術館		〒391-0011	茅野市玉川1500番地	T E L. (0266) 73-5440
茅野市尖石考古館		〒391-0213	茅野市豊平4734-132	T E L. (0266) 76-2270
文化財課		〒391-8501	茅野市塚原2丁目 6番1号	T E L. (0266) 72-2101
茅野市神長官守矢史料館		〒391-0013	茅野市宮川1389番地の1	T E L. (0266) 73-7567